

平成27年度 第1回向日市歴史的風致維持向上協議会 議事要点録

○ 日 時 平成27年11月6日(金) 14時00分から15時30分まで

○ 場 所 向日市民会館 4階 第1会議室

○ 出席者

(委員) 脇田委員長、神吉副委員長、高久委員、高木委員、小谷委員、中村委員、大塚委員、横井委員、小林委員、野田委員、磯野委員(代理：岸岡副課長)、物部委員(代理：鈴木次長)、大野委員(代理：福岡次長)

※欠席 嶋田委員、六人部委員

(ワザバー) 近畿地方整備局建政部計画管理課 藤本課長

京都府総務部自治振興課 石川参事

(向日市) 安田市長

(事務局・説明員等)

市長公室 今西室長、小賀野次長

企画調整課 長谷川課長、伊藤主幹、人羅係長、上野主任、小瀬主事

建設産業部 都市計画課 巖嶋課長、道路整備課 太田担当課長

教育部 渡辺次長(文化財調査事務所長)

○ その他出席者

傍聴者2名、随員2名

○ 会議概要

1 市長あいさつ

2 議事内容

(1) 実施事業の報告について(平成27年度実施事業について)

事務局から、今年度の実施事業について説明を行う。(資料1)

・事業番号① 大極殿整備事業について

平成26年度における買上用地について発掘調査を実施

・事業番号③・④ 歴史的建造物(須田家住宅、富永屋)活用事業について

それぞれの歴史的建造物の活用方策検討調査を実施

・事業番号⑤ 歴史的石碑・常夜燈保全活用事業について

平成26年度にポケットパークの整備に合わせ、光明寺道の道標を移設

平成27年度もポケットパークの整備に合わせ、築神社常夜燈、物集女公民館にある常夜燈について保全活用予定

・事業番号⑥ 西国街道整備事業について

西国街道を石畳風の舗装へ整備予定(市道第2118号線)

・事業番号⑦ 竹の径景観保全事業について

現状を整理するための台帳整備を実施

・事業番号⑧ 桜の径景観保全事業について

市街地景観を保全するための整備を予定

・事業番号⑨ 長岡宮跡周辺道路美装化事業について

来訪者の回遊性向上を図るための整備の設計及び工事の実施(市道第4001号線、市

道第 4007 号線)

- ・事業番号⑪ 歴史資源回遊性向上施設整備事業について

市民ふれあい広場のトイレや休憩施設の整備に向けた設計の実施

- ・事業番号⑫ 歴史文化交流拠点整備事業について

市民体育館に歴史文化交流拠点を整備し、地域交流活動の拠点としての機能を向上させるとともに、利用者へ向日市の歴史文化をPRし、市内の観光地への誘導機能をもたせる

- ・事業番号⑬ 情報案内板設置事業について

来訪者が安心、安全に周遊できるための案内板等の設置計画の策定と設置を実施

- ・事業番号⑮ 観光マップ作製事業について

向日市の歴史的風致への理解と周遊できるようにするため、回遊ルートや歴史資源を示したマップの作製を実施

作製中のガイドマップを用いて、ルートの設定についての説明を行い、ルート案や内容などについて意見を伺う

- ・事業番号⑯ 長岡宮・平安京連携事業について

京都市（南区、西京区）との協働イベントを開催

- ・事業番号⑰ 長岡京広報・PR事業について

歴史・観光資源専用ホームページ、Facebook の開設、PR ロゴマークの作成、公共交通機関を活用した広報の実施。向日市の歴史、観光名所等イメージアップを推進中。

- ・事業番号⑱ 向日市文化資料館企画展実施事業

企画展「乙訓の西国街道と向日町」の開催（11/7～12/13）

- ・事業番号⑲ 発掘調査説明会事業について

鶏冠井町大極殿地内及び大極殿公園の発掘調査による検出状況について説明会を実施（10/25）

- ・事業番号㉑ 市民歴史活動連携事業

向日市まつり会場にて大極殿衣装行列(11/14)、西岡衆武者行列(11/15)を実施

【意見の要旨】

委員： 1年目からたくさんの事業が始まっており、PR が進んでいて安心した。事業番号⑤の石碑や灯籠の移設について、石碑の種類や性質で変わると思われるが、建っている場所を少しだけ動かしてもいいのか。今後、道路舗装の整備や公共用地の修景事業を考えておられるが、向日市の西国街道だからこうしているということがあるのか。

事務局： 石碑や灯籠の移設について、現在、築紳講常夜燈と物集女公民館敷地内にある常夜燈の2基を考えている。これらは、過去に様々な理由（道路拡幅や住宅開発）により、移設されており、本整備によって本来あるべき位置に近づけるものである。また、来訪者等にとってより目立つところに移動することから、有意義なものと考えている。

委員： 道路の整備については、第1は、歩行者の安心、安全を重視し、バリアフリーに対応した歩きやすい道路にしている。西国街道であることから歴史的な道のイメージにさせたいということで、御影石の石畳風舗装を採用している。

委員： 歴まち計画は取組が動いていくのが特色であると思っている。そのため、どういう理由でこのように整備したなどを整理してもらい、教えてもらえると楽しい。今言わ

れていたように、やむを得ず、移動されていたものをできる限り元の位置に戻す。という方向で実施されるのは良いことと考える。道路に関しても、市民の方々に歴史性も踏まえながら、歩きやすいように整備していくよう配慮していると伝わるようにアピールしてください。また、何か報告書等を書かれる時は、そこを強調してください。

ルートマップについて、多く書き込むと読めなくなるため、その調整が難しい。私自身が他の業務で工夫してやったのは、表が公式のマップ、裏は地元の人が書き込んだ白地図のようなマップを作ってみた。裏の方で、今日のポイントはここというようなマップを作成してみた。そうすることで、今、取り組んでいる内容が含まれて、さらに強調したいところが示しやすいのではと思う。

委員： 認定の前から議論に参加させてもらっているが、向日町には、古代から近代にかけての歴史が重なっており、長岡京の真正性だとか「ほんまもん」が向日町にあるというような事が大きいと感じている。

西国街道は、京都から久世、長岡、大山崎と続いているが、向日町が群を抜いて町並みが残っている所では正直ない。しかし、灯籠の移設や道路整備について、かつての歴史を偲ばれていることは、本当に良いと思う。向日町は、西国街道の京都を出た最初の宿、町場であったことから、向日町の特色としては向日神社と宿がある。そういった中で、指定等ではないが、富永屋は、貴重なものであると思う。今も実際に地元の方が活用されている。これを生かし、向日町の町場が広まったというのを守っていつていただきたい。

委員： 常夜燈の移設について、来訪者に分かるような説明文をつけるのか。そこに、西国街道の一番宿であった、乙訓の中心であったというような説明文も分かるようにつけていただくのはどうか。

事務局： 説明板については、経緯や歴史等を記載したものを設置予定である。併せて、共通サインの整備を計画しており、整備を進めていきたいと考えている。

委員： マップの配布先の想定はどう考えているのか。一般の方に配ると思うが、まず、車で来られた方に配るとなると、国道の位置を分かるようにすべき。また駐車場もあれば書いたほうが良いと思う。ただ、民間駐車場は標記しにくいと思うが、車がどこに駐車できるのかが分かるとよい。地元の方でないと読み方がわからない地名等がある。ルビを入れるなどの配慮が必要。方位も抜けている。

また、歴まちガイドマップの内容説明も丁寧に書いてあると思うが、一般の人がどれだけ見てくれるのかという視点で見ると内容が固いという気がした。もう少し表現等を柔らかくした方が、より多くの人に見ていただけるのではないかと感じた。

事務局： ご指摘いただいた点(マップ、ルビ、説明部)について、再度検討する。

委員： 今の意見はとても重要と思う。私は、向日市の魅力の一つが地名の難しさと思っている。私の知人も向日市の地名でファンになった人もいる。ハードルと思わず、難しい地名自体が PR で、そこから歴史の勉強に入られる方もいる。ぜひ、魅力的なものとして扱ってほしい。

委員： 事業番号⑩広報・PR 事業について、ホームページ開設から Facebook 開設、ロゴマークの募集、駅での広報、看板設置など、色々な広報戦略を立てられている。歴史資源のたくさんある向日市にこういった方を呼び込もうと考えているのか。広報につ

いての戦略な考え方について少し伺いたい。私の考えでは、Facebook やホームページ以外に映像を使つての広報は分かりやすく、いいと考えている。

事務局： 4月に市長が就任され、本格的な予算は7月からとなる。市長の政策方針の大きな柱の1つに「歴史を活かしたまちづくりの推進」を掲げている。広報の戦略として、今年度は昨年度の会議の中でもあがっていた PR が遅れているということに着目をし、広く、浅く、市の PR を行うことで進めている。そのことから、ホームページの作成やロゴマーク作成、Facebook の開設、駅看板での PR を行っている。

先日、本市で開催した竹結びフェスタやかぐやの夕べへ京都府名誉友好大使を招待し、その方からも情報発信をしてもらうなどといったことも行っている。その他、映像制作についても、実施について検討をしている。

委員： マップについて、最近はスマホが普及しているので、QR コード等を活用したまち歩きマップに取り込んでいただくこともよいと思う。スマホを用いて、実際にイメージを掴んでももらうことも必要ではないかと考える。それに伴い、Wi-Fi 等の設備整備が必要だと思う。そうすることで、一層、効果が広がっていくのではなかろうかと思う。

もう1点として風致景観を守ることについて、行政だけで守れるものではなく、地域の方が主体となって進める必要がある。地域の方が参加できる仕組みを今後考えていく必要がある。そういった取組をしていけば、さらに広がっていくと思う。

委員： ルートマップに関連して、青や緑のルートについて桂川駅、向日町駅から20分ぐらい何もない状態となっているが、初めて来られる方にとっては、これを見ただけで少しハードルが高くなる気がする。

先ほど、映像化のことが出たが、図面だけでなく、ホームページなどで2時間、3時間のコースを映像で数分で回るなどはどうか。その中に歴史的なエピソードや小字が読めないという話などを交えながら、一般の方に興味をもってもらえるような仕掛けづくりをすればよいと思う。

事務局： 今、ご意見をいただいた、映像については、文化財の方で、既に作成している。市内各駅から名所を巡る映像を「パノラマビュー」という名称で、ホームページにアップもしている。これらは、町並みを見ることはもちろん、歴史文化地点をすべてスポット化しており、それらについても選んでいただければ、見ることができる仕組みになっている。委員の皆様も一度観ていただければと思う。

委員： 市民参加の話があったので、事業とは関係ありませんが、一言話させていただく。私は都市計画審議会の委員もしており、この会議の内容や進捗状況について審議会の委員へ報告している。その審議会の委員の方もこの計画にはとても興味を持ってもらえる。その中で、個人同士で話している内容ですが、歴まち計画の事業を進めるにあたり、都市計画審議会でこのようなことができないかということやまちづくりを進めておられる方からこういうことを一緒にしませんかと言っただけでないかなと言っている。

例えば、長岡京に関する色々なものが地中に埋まっている地域は、住宅地域であり、分かりづらいという意見もあると思うが、おそらく地下構造を壊さないということで、指導され建物を建ててもらっていて、都市計画の観点でみると遺構が守られてい

ると感じる。仮に大きな建物が建つと、おそらく地下を掘り潰してしまっていると推測される。現状は、大きな建物はなく、守っていただいていると感じている。都市計画の立場からいうと、今後においても、地中を守るための都市計画にするなどを進めることができれば、役割を果たせるのではないかと考えている。本協議会の方から、都市計画や他の分野に何か一緒にやれることがないかと投げかけ、一緒にやるような流れができればと考えている。何かあれば、声をあげていただきたいと考えている。

委員長： 向日市で何かを建てるときは、色々配慮して、やることがあると聞いたことがある。事務局の方で、何かあったか教えてもらえるか。

事務局： 文化財担当課では、まちづくり条例に関して全ての開発等に係る埋蔵文化財保護の審査を行っている。また、遺跡内の建築確認の事前審査もすべてを行っている。審査の中で、基礎等の掘削により文化財を破壊される場合は、その保護について、発掘調査など協議を行っている。

委員： 歴史的な景観ということに関して、私見であるが、歴まちの指定をされたのは、現状の残りが良くなくても本来のほんまもんがここにあったという真正性の所を評価されて、決まったと思っている。今も残されているものとして、富永屋とか常夜燈とかが代表的である。これらを大事にするべきと思う。

それから、映像に関して、バーチャルでかつての景観を復元するのはどうか。古代だけでなく、例えば、文化資料館にある市民の方々が作成された向日神社の下の町場の模型やかつての東海道本線の拠点であった向日町駅周辺の模型が造られたりしているものをバーチャルなものへ取り入れてかつての景観を復元していくとか。

あるいは、J R向日町駅にかつての景観の模型があるだけでもよいと思う。今残されているものを大事にする。民家や遺跡を大事にする。といった古代とか近現代とか近世といった様々な時代の景観をバーチャルで復元するようなことも必要かと思う。

事務局： 委員が言われたように、市では、市民サークルと共に向日町駅前の再現をさせていただいた。2，3年に一度、模型上に電車が走るという形でNゲージをやるなどを資料館の方で行っている。また、映像面では、立命館大学とタイアップし、3Dの長岡京を70インチテレビで紹介。復元・体感ということでは、長岡宮においては、2年前に「AR長岡宮」というアプリを導入し、長岡宮大極殿や内裏等については、スマートフォンやタブレットにダウンロードでき、現地の遺跡の真上に当時の原風景がARやVRで動くようになっている。なお、全て建築等の復元については、有識者等に建物風景も確認していただき、完成している。

その他、それだけでは、おもしろくないので、続日本紀や日本後紀等を参考にし、何月何日になれば、その日だけ、登場する仕掛けが設定している。長岡宮のある地域は、都市計画上、第1種住居専用地域であり、復元建物を原寸大で建てるのが難しい所であるため、AR等を活用しながらの復元を基本に努めている。

委員： 事業番号⑦の竹の径景観保全事業について、一般の方には竹藪と認識されていますが、孟宗のタケノコが掘れるのは畑である。それ以外の竹林は山林扱いであり大きく異なる。阪急やJ Rから西側をみたら緑が多いが、逆をみたら緑がなく向日市の最初の都市計画が失われつつあると感じている。竹の径へ行かれた方は多いと思うが、

様々な場所に資材置き場ができています。向日市が歴まちで竹の径景観保全というのであれば、竹の径に面したところには、いっさい資材置き場ができないように網をかけてもらいたい。畑は、農業委員会の許可がなければ、地目変換できないが、山林は、簡単に地目変換できる。私も含め、後期高齢者がどんどん竹藪を守っていけなくなり、相続がかかり手ばなし、建設業者等がもっている竹藪が結構ある。そこが資材置き場等になり本来の保全すべき竹藪を壊していく可能性もあると考えている。調整区域にするなど規制を設けて、竹の径の保全にそぐわない事業が出てきたら、許可しないような方向で進めていただき、守っていただきたい。

事務局： 竹の径のある西ノ岡丘陵は、現在、市街化調整区域に指定されており、基本的に建物が建てられない地域である。しかし、資材置き場としては法的に設けることができる。そのため、規制を加えていかなければ資材置き場が増えていってしまう可能性がある。そのような中、向日市のまちづくり条例では300㎡以上の資材置き場については、まちづくり条例に基づく届出が必要になっており、その届出の中の開発基準のガイドラインで、西ノ岡の丘陵については、資材置き場にする際、それらが直接見えないようにするよう囲いをしたり、道路に面して植樹等をしてもらうなど配慮していただいている。

以上のことから、今後、畑については、農業委員会の許可がいるが、山林については、何にもなしで開発ができてしまうので、植栽で隠してもらうなど周囲の景観にそぐわないものとならないように指導していきたいと考えている。

(2) 重点区域内の文化財の指定・登録について（報告）

事務局から、説明を行う。

・向日神社境内社の国登録有形文化財について（報告資料1）

三間社流造りの代表的な建物として重要文化財の指定を受けている本殿の周りの境内社13棟について、8月4日付けで、国登録有形文化財の文化財登録原簿への登録、国登録有形文化財となった。

向日神社は再来年で創建1300年を迎える。その境内は、流しそうめんやコンサート、桜まつりなど地域コミュニティの場所として活用されており、今回の登録を契機になお一層、色々な活用ができればと考えている。

その他にまだ六人部社家もあり、こちらの文化財指定等についても今後検討していたけると伺っており、神社としてもさらに地域に貢献していきたいと伺っている。

・向日丘陵古墳群の史跡指定に向けて（報告資料2）

桂川右岸の京都市の松尾大社のあたりから大山崎町の小倉神社のあたりまでの地域に現在良好な形で残っている古墳32基のうち16基が、この地域に集約して残っている。この地域の古墳を一括して史跡指定することについて文化庁と協議をしている。既に史跡指定されている天皇ノ杜古墳、寺戸大塚古墳、恵解山古墳に残りの古墳を追加して、乙訓古墳群としてまとめる方向である。

本市からは、元稻荷古墳、五塚原古墳、南条古墳、物集女車塚古墳、寺戸大塚古墳の5基の指定をお願いしている。順調にいけば、今月中・下旬に開かれる国の審議会において答申をいただけるかもしれない。

- ・史跡長岡宮跡の発掘調査について

長岡宮跡の発掘調査として平成26年度に公有化した約1650㎡の地域内において発掘調査を実施した。その結果、長岡宮を囲う回廊という二重の廊下の柱跡が8基みつき、10月25日に調査成果の現地説明会を実施した。説明会にあわせ、アプリのAR長岡宮で見られるようにし、よりわかりやすい説明会となるように努めた。そのほか、最新の映像を使った3Dでの遺跡を復元させるデモンストレーションも開催した。次年度以降も財政条件等が整えば、保全整備に向けて検討をしていく考えである。

3 その他

- ・いただいたご意見について、参考にさせていただき、事業の実施をしていく。
- ・次回の協議会の開催は来春の予定。
- ・上位計画となる「ふるさと向日市創生計画」を策定中。
- ・さらなる歴史・文化資源の活用。都市基盤（観光ルート、駅周辺）の整備を推進。
- ・本計画を軸に関連予算の整備計画に反映して事業の進捗を図りたい。
- ・11月7日から12月13日まで特別企画展「乙訓の西国街道と向日町」を向日市文化資料館にて開催。
11月21日には、高久先生の特別記念講演会も行われる。
- ・11月14日に「古代衣装ファッションショー」を向日市文化資料館で開催。
同日、向日市まつりも開催中。
- ・11月22日に「近畿歴史まちづくりサミット」が上七軒歌舞練場にて開催。各都市の歴史まちづくりについての取組について発表。安田市長もプレゼンをする。